



未来を拓く心豊かでたくましい生徒の育成

杜の風

成田市立公津の杜中学校 学校だより「杜の風」 令和2年度 第4号（5月25日発行）

成田市公津の杜 5-29 ☎0476-20-5511 jh-mori@edu.city.narita.chiba.jp



学校HP

5月11日にスタートした学習支援が3週目に入りました。学習計画を立てて家庭学習に取り組む生活にも慣れてきた頃かと思えます。

生徒の皆さんは、6月の学校再開へ向けて、生活面・学習面の準備を整えましょう。

保護者の皆様は、臨時休業期間中にみられたお子様の成長を、ぜひ言葉にして伝えてあげてください。また、浮かび上がってきた生活面・学習面の課題についても、親子で確認してください。

基本的な生活習慣を整えよう！

今回は《言葉の習慣》について考えてみましょう。

幼い頃は、親があなたの気持ちを代弁してくれたり、あなたが黙っていても周りの大人が察してくれたりして、言葉の大切さに気づく場面は少なかったかもしれません。しかし、人は年を重ねると、**自分の考えを自分の言葉で表現**しなければなりません。言葉が足りないと、自分では相手に気持ちを伝えたつもりでも、相手は別の意味で受け止めていたり、全く伝わっていなかったり……。そんな経験は誰にでも一度や二度はあるのではないのでしょうか。そして、もつれた人間関係を元に戻してくれたのも、誰かの言葉ではありませんでしたか。



ですから、言葉は大切に使う必要があります。

① ラクな言葉に頼りすぎていませんか？

たとえば、「ヤバい」という言葉。美しいも「ヤバい」、汚いも「ヤバい」。楽しいもつまらないも「ヤバい」で済ませていませんか？ 「すごい」もそうです。「すごい」だけでは**何も表現できていません**。「すごく〇〇」の「〇〇」を省略してしまっているのです。もちろん、省略された〇〇の部分をわざわざ言わなくても通じる相手もいますから、そういう相手との一体感を確認し合うには、ちょうどよい道具とも言えます。

しかし、同時に、あなたの気持ちを共有できない人がいたとしても不思議ではありません。ましてや、育ってきた環境や感情表現の方法が異なる人どうしが共に暮らす現代社会では、はっきりと言葉にして意思表示をすることがとても重要です。外国の方が「日本人は自分の意見を言わないので、何を考えているのか分からない！」と不満に思うことは珍しくありません。

安易＝ラクな言葉に頼りすぎず、「うれしい」「うれしくない」「興味がある」「興味がない」など、**感情や考えを具体的な言葉で表現する習慣**を身につけましょう。

② キャッチボールになっていますか？

どんなに選び抜いた言葉も、一度だけでは相手に伝わらないことがあります。そんなときは、すぐにあきらめたり怒ったりするのではなく、もう一度くり返したり別の言葉で言い換えたりして、相手に分かってもらおうとすることが大切です。



会話はキャッチボールです。**相手が受け止めやすいところへ、相手が受け止めやすいスピードのボール**を投げ合います。一方、相手から球が返ってくることを期待せず、相手が受け止められないようなボールを投げるのは、ドッジボールです。相手を仕留めようとしません。

あなたの言葉はキャッチボールになっていますか？

家庭学習を充実させよう！

① 時間を決める

家庭学習を習慣にするための第一歩は、時間を決めることです。その時間になったら、他の用事は全て中断し、勉強を最優先にします。初めは短くても構わないので、毎日同じ時間に設定しましょう。そうすることで体が反応しやすくなりますし、周囲の協力も得やすくなるので、継続しやすくなります。

② 家族・友人との協力関係を築く

①で決めた時間に勉強に集中するためには、家族や友人との協力関係が必要です。家族には、その時間に家事を免除してもらうために、担当の家事を事前に済ませておくといよいでしょう。友人には、その時間にはSNSやオンラインゲーム等を利用できないことを事前に知らせておきましょう。あなたの勉強は、周囲の人に一方的に協力してもらうだけでなく、あなた自身が周囲の人に誠意を示したり行動で示したりすることで、よりいっそう充実していくでしょう。



③ 短い時間枠を2つ～3つ積み重ねる

勉強を始める前に、時間の使い方について、あらかじめ見通しをもっておくといよいでしょう。例えば、「今日は、まず数・英の宿題で30分くらいかかりそうだ。その後は国・英・社の復習を5分ずつしよう」とか、「復習の後に5分休憩して、自学*の計算問題を10分やってみよう」というように。一つのことに無制限に時間をかけるのではなく、短く区切った時間の枠（わく）を2つか3つ積み重ねるようなイメージで、あらかじめ「今日はコレとコレの2つのことをやる」と定めてから始めましょう。

* 自学は、誰のためでもなくあなた自身のためにすることですから、たとえば前の学年でつまづいてしまった単元があるなら、ためらわずにそこから始めましょう。焦らずにじっくりと足元を固めることで自信をもてるようになります。

④ 3か月続ける

何事も成功の秘訣は反復です。くり返すことで力がつきます。家庭学習も同じ。短時間からのスタートでよいので、まずは3か月続けてみましょう。



家庭教育のポイント

家庭の中での言葉遣いを大切にしていますか？子どもたちの言語環境を考えたとき、言葉について学習する機会が多い場所は、家庭と学校です。特に家庭で、おじいちゃん、おばあちゃんをはじめ世代の異なる人との会話、親との会話により言葉遣いを学んでいるのです。“家族だからそんなに言葉遣いに気を遣わなくてもいい”という考えもあるでしょうが、いかがなものでしょうか。“家庭こそ言葉遣いの基礎を学ぶ場”なのです。家庭は“子どもたちの言葉遣い”について考え、適切な言葉の表現を身につけさせる場なのです。

□ 大人が見本となっていますか？

時々、子どもには聞かせたくないような乱暴な言葉遣いをしたり、丁寧な言葉を使って話そうとしない大人がいたりします。親が子どものことをいつも意識して日頃の言葉遣いに注意している場合と、自分の思いに任せた自由勝手な言葉遣いをする場合とでは、子どもが身につける言葉遣いに違いが出ます。そして、言葉に対する意識、感性は大きく異なっていくものです。私たち大人は“言葉遣いは子どもにとって大切な言語環境である”ということをしっかり認識しておきたいものです。

□ 気になる言葉遣いはその時に注意していますか？

“今の言葉はふさわしくないなあ、もっと他の言い方をしたほうがいいよ”という具合に、我が子の言葉遣いを注意した経験はありませんか。言葉遣いが悪い時に、そのまま何も言われずに済まされた子どもは、同じような場面でもまた似たような言葉遣いをするようになります。気になった言葉遣いはすぐその場で注意してあげ、より適切な表現を教えることが言葉の大切なしつけといえます。それをいつも実行したいものです。

(参考：「学校から発信する家庭教育支援プログラム」千葉県教育委員会)